

# “人間と性”

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会  
(性教協)会報 No. 290 2014.2.25

発行：“人間と性”教育研究協議会 / 発行責任者：佐藤明子  
〒151-0061 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイツ1006号  
Tel 03 (3379) 7556 ホームページ <http://seikyokyo.org>

## 視点

### 見逃さないで、子どもたちのサインを

第28回理論と実践講座実行委員長  
『季刊セクシュアリティ』編集長 金子 由美子



この原稿を執筆中の私の傍らに『週刊文春』があります。その週刊誌には、物を醸しているテレビドラマ『明日ママがいない』の子役、芦田愛菜さんの次回作をめぐる記事が掲載されていました。その映画『円卓』では、寝転がる「変態

ロリコン親父」の顔を愛菜さんが踏みつけるシーンがあると書かれていました。私はこれまでに、子役をしている生徒に何人も出会いました。どの子も、心とからだへの健康被害が心配でした。時には保護者に改善を訴えたことがあるのですが、受け入れてもらえませんでした。スケジュールに追われ学校行事に参加できず、仲間からも腫れもの扱いされる疎外感。深夜までの撮影や台本覚えのための学業不振による自己嫌悪。極度なダイエット、パーマや化粧による健康被害。ステージママと父親の不仲や離婚。マネージャーとのギャラトラブル、ストーリーカーなど、周囲のおとなの醜態。例をあげればきりが無いほど、子どもらしく生きる権利を奪われていたのです。

ドラマとはいえ9歳で「ポスト」と呼ばれ、「変態親父」を足蹴にする芦田愛菜さん。女優としての活躍ぶりよりも、子どもらしくない立

ち居振る舞いやまなざしが気になります。

撮影後の心のケアはできているのでしょうか。様々な事件の渦中に人にみられる、記憶を飛ばし人格が変わる「解離」という症状は、心理的苦痛を直視しないための防衛手段として身につけられてしまうことが多いといえます。ゆつくり豊かに生きる子どもも期を剥奪された子どもは、おとなになった時、果たして子どもを大切にする立場に立てるのでしょか。

さて、私が、『季刊セクシュアリティ』の編集長になり、早二年が経過しました。発行部数の伸び悩みを痛めつつも、現場の養護教諭ならではの視点を持ち、子どもの性の現状からスタートし、性教育の理論を深め、実践を高めていける特集テーマを心掛けています。

ここ数年は、「理論と実践講座」のテーマと『季刊セクシュアリティ』の特集テーマとはタイアップさせています。「見逃さないで『性的いじめ』く学校における性暴力く」をテーマとした今回は、子どもの危機的状況を検証し、支援活動を展開している講師をお招きし、「読む+聴く+意見交流」の立体化をめざしました。

会場は、新幹線や飛行機のターミナルからは遠い埼玉大学になりましたが、北海道や九州からの会員の皆様や、埼玉大学の学生さんなど若者の姿も目立ち、89名の参加者と、充実した二日間を過ごしました。そのうえ、それぞれの講師から、性教育に期待する熱いメッセージと、未来に繋がるネットワークづくりの確証をいただくことができました。

今号は次ページからその報告集となっています。是非お読みください。また今後の『季刊セクシュアリティ』にもご期待いただき、購読者を広げてくださるよう心からお願いいたします。